

9月21日(水) 本年度第11回(通算2603回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル

『新入会員卓話』

担当/プログラム委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

☆メイクアップ

9月16日	田中和紀君	(白糠RC)
9月20日	三原克也君	(釧路ベイRC)

☆出席報告【会員総数66名 免除11名 出席計算に用いた会員数66名】

本日の出席者 32名 出席率 48.5%

9月7日の修正出席率 出席者34名 メークアップ2名 修正出席率55%

※ 9/7は会員総数65名 免除11名 出席計算に用いた会員数65名

☆ニコニコ献金 (今年度累計 244,000円)

- ・新入会員卓話宜しくお祈いします
- ・新入会員の皆様卓話宜しくお祈いします and 結婚記念日です
- ・バースデーケーキありがとうございました
- ・誕生日と先週欠席してすいませんでした
- ・結婚して10年経ちました
- ・結婚記念日あつという間の24年です and 新聞にデカデカと載ってしまいました
- ・誕生日ありがとうございます。台湾チャーター宜しくお祈いします
- ・先週は前々任の中村がお世話になりました
- ・秋ですね・・・

能登信孝君、田中和紀君
 新妻繁市君
 吉田茂樹君
 迫田 武君
 佐渡正幸君
 泰地浩幸君
 三宅弘泰君
 岡田 拓君
 松田信明君

☆会長挨拶
 《能登会長》



今日は、今期初めての新入会員の卓話の例会となっております。私も入会まもなく、なにを話すか迷い、自分の職業である、建物の構造設計に関連の地震の話をしました、卓話をした後、先輩から声をかけられるようになり昼ご飯がおいしくなった記憶を思い出しました。新会員の卓話は、会員の皆さんが、どのような仕事しているのか、また考え方を話す機会ですので自分をPRしてください。

今日スピーチされます、吉田君、東海林君、北山君よろしくお祈いします。

また来週の例会はモンゴル首都ロータリークラブの会員で、新モンゴル高等学校校長のジャンチブさんの講演となっておりますので、会員の多数の出席をお願いします。

☆幹事報告
 《田中幹事》



- ①ガバナー事務所より10月のロータリーレート 1ドル = 78円です。
- ②柴田直前年度のガバナー月信14号をパーソナルBOXに入れておきます。
- ③例会次第の順番を入れかえさせて頂きました。出席報告・委員会報告を会長挨拶・幹事報告の後にさせて頂きます。
- ④地区大会の参加人数は23人となっております。登録料13,000円の支払いがお済みでない方は28日(水)までに会計坂入理事までお願い致します。
- ⑤増田ガバナーよりガバナー指名委員会に 2014年～2015年度ガバナー指名案を提出するよう要請がありました。提出期限は2011年11月30日までとなっております。
- ⑥北ローターアクトの例会場の変更について10月の例会より釧路キャッスルホテルになりました。例会日、例会時間は従来通りです。
- ⑦釧路日台親善協会入会のご案内



☆吉田 茂樹君

シビルウエディングとは人前挙式(市民結婚式)と定義付けしている。欧米では、宗教は厳格なものであり、日本の風土とは違い、多宗教・多民族の為一つの宗教のもとで挙式を執り行うことが難しいことがあった為、古くから市民結婚式シビルウエディングが行われている。婚姻届は日本では市・町・村庁に提出するだけですが、欧米では婚姻届の署名がセレモニーとなっており、市・町・村のセレモニールームで判事・係官・市町村長や国が資格を与えた司式者によって執り行われます。この式は、婚姻の法律上の手続きを完了させることが目的でシビルウエディングとよばれています。

アメリカではキリスト教プロテスタントの人口が過半数を占め、そのため約80%が教会で結婚式を挙げており、シビルウエディングは20%程度となっている。アメリカのシビルセレモニーはMarriage License(結婚許可書)をもって二人で裁判所や市役所に行き判事もしくは市長立会のもと結婚の宣誓書類にサインし、指輪の交換を行いサインした書類を提出し、結婚証明書が発行され、宗教婚に比べてとても簡素です。

オーストラリアは、多宗教の為67%が宗教によらないシビルウエディングです。Marriage Celebrant(結婚執行者)司式者として執り行っている。その他の国はのイギリスがシビルウエディング67%。スペインがシビルウエディング53%。ポルトガルがシビルウエディング55%となっています。

全日本ブライダル協会では、これから増加していく人前結婚式も法律上の婚姻成立のセレモニーを第一主義にするべきと考え、結婚式の前に予め役所に婚姻届を提出し、その長が発行する「婚姻届受理証明書」の交付を受け結婚式の中で司会者がこの証明書を読み上げ、参列者に婚姻成立を宣言する。このセレモニーをメインとする人前結婚式を「シビルウエディング」と定義づけている。

全日本ブライダル協会ではシビルウエディングのセレモニーを司る司会者をミニスターと呼んでいる。全日本ブライダル協会の養成講座と実施試験を終了し、合格した者だけを協会が認定したものです。当日の司会を格調高く・心から祝福の言葉を贈り末永く二人の結婚を暖かく見守ってくれる存在です。北海道には12名おります。



☆東海林 均君

ついにこの日がやってきました。このような場で話すことは今まで一度もなくとても緊張しております。私は昭和39年生まれ、現在47歳です。家族は嫁と子供が二人います。長男は今、室蘭の大学に通っており4年生で現在、就職活動中です。長女は江別の短期大学に通っており2年生でこれも同じく就職活動中と我が家は今がいろいろと大変な時期に突入しています。会社は愛国西にあるジャパン・プランニングという保険代理店です。当クラブに在籍していました熊澤昭二さんは生前、当社の会長を務めていただきました。

また社長、佐藤は西クラブに在籍しているところでございます。このような環境の中で縁あって田村さんと知り合い、お付き合いをさせていただいているうちに入会をすることとなりました。趣味は船釣りです。私のお客様が4年ほど前より船舶免許を取り最初のころは、釣れる場所もわからずひたすら釧路沖に出てました。2年・3年と繰り返しているうちに徐々に釣れるポイントが分かり確率よく釣れ始めました。釣りの年間のスケジュールを簡単にお話します。

5月中旬から宗八カレイ 6月位から鱈・ホッケ・青ゾイ・柳の舞 7月下旬からイカ 8月もイカ 9月初旬から 鮭なのですが海が時化もようになり中々出れません。今年は特に台風の影響で11日だけです。10月上旬まで鮭を追いかけしています。11月は寒鱈・青ゾイを狙う予定です。12月位で船をあげて終了です。このような、たわいもないお話におつきあい頂きありがとうございます。ロータリー・クラブへの入会を機会に皆さまに大いに刺激を頂きながら、成長していきたいと思っています。どうぞよろしくご指導いただけるようお願い致します。



☆北山 幸徳君

大先輩がいらっしゃりまだ、51歳の若輩が人生をふりかえるとは思われるかもしれませんが祖父も父も70歳で亡くなり、自分に置き換えるとあと20年ないかも知れません。あと人生3分の1を生きるに当たっての総括の一部を多少お時間を頂いて皆様に聞いて頂きたいと思えます。

1. 結果オーライの人生?

代表的な例は高校1年の終わりに文系と理系へのクラス分けに当たって、当初は理系へと考えていたのですが後に一番仲のいい友人となるK君が文系に行くということで単純に俺もついていくわという簡単な気持ちで文系へ。税理士は数字を使うから理系とおもわれているかも知れませんが文系です。当然、あとからわかったのですが経済学部や法学部等の教養課程を修了すれば税理士試験の受験資格与えられのです。ですから、K君には一生頭が上がりません。

2. 何故税理士になったのか?

実家が祖父の時代(昭和の初め)から共栄大通6丁目で酒家をしていました。酒の免許は紙製ではなく板製で鳥取第1号という看板が店にはありました。

当然、幼少時代は自分も実家を継ぐのが当たり前だと思っていました。手前みそかも知れませんが私が中学校1年の時だったと思いますが父が単独店ではありますが道東で初めてCVS(?)を開店してけっこう売上が伸びました。当時は頭に柔軟性がなくこんこんちきだったために同じ土俵で勝負してもだめだと思い、父の友人に泉先生、佐渡先生、坂野先生がいて何か漠然と資格を取ろうと思うようになり、家業が商売をしていたので税理士になろうと思った次第です。ちなみに、高校入学当時の進路調査表の希望職種に税理士・公認会計士とはっきり書いたことを記憶しています。

あのまま、何も考えず家業を継いでいたらと思うとぞっとします。

3. 税理士となって20年目。

資格は24歳の時には取得しました。大学院を修了後、釧路商工会議所に8年間お世話になりました。会計事務所ではできない仕事を数多くさせていただいたことに大変感謝しています。ある税理士の先生から声がかかり一緒にやらないか? 当時、30歳までに独立した方がいいという図書があり、殆ど何も合意することなく、また、相手の内容も確認せず渡りに船と思い、税理士という業界に32歳で飛び込みました。当時は、まだ釧路の経済環境も良く、個人から法人成りをさせて頂いたり紹介も多数頂き並みの税理士事務所にさせていただきました。

ただ、この10数年の間に会計、商法、税法の大幅な改正がありました。この改正はいままでですと30年以上ではないでしょうか。ですからついていくのもやっとなです。

また、その間に、専門職ということで民事調停委員、社会福祉法人の監事、団体の監査等をさせていただきました。狭い業界で生きている自分にとっては大変色々勉強させていただきました。

番の反省点はお客さんの悩みをすべて受け入れて解決できると思いあがったことかと思えます。できるはずもないのに…そのことによって自分も詰まってしまう、後からわかかのですがパニック障害の症状がでたりと大変な時期もありました。現在のスタンスは悩みは聞き、相談事でも自分で解決できること、できないことをはっきり言うようにしていますし、一步その企業(家)からでるとわすれる様になっています。そうでないと新しいことが入りませんし対応しきれません。

逆に、税理士になって嬉しいことはお客さんに喜んで頂けることです。特に開業当初、前の先生から引き継いだ結構文句を言っていたお客さんがいました。家族の仲もあまりよくなく、ばらばらだったのですが家族全員事務所にきてもらい再建の話をしました。そのことによって家族がまとまり、不動産を売却しながら10年以上かかって借金を完済したとき、当時のクレマーの専務さんから北山事務所でよかった。ありがとう。の一言を聞いたとき涙があふれました。

また、色々な企業や家を訪問させて頂いてつくづく感じるのがお金が一番ではないということです。お金や財産で親子、兄弟姉妹が争っているのはしねびないです。ですから家族の仲がいいのが一番感じています。

4. 今後の人生は?

まず、今後は信頼される税理士業界を構築できるように微力ながらお手伝いできればと思っております。

税理士を死ぬまでの職業とはとても考えていません。開業して10年目の頃自信がなかったのか早くやめたくて仕方ありませんでした。税理士職員向けの研修会でもはなしていました。現在は多少、自信がつくと他の税理士とは異なる独自性の部分をみつけることができたのですぐにやめようとは思いません。当然、職員もいますし。

ただ、士業の人間として自分で進退は決めないと思っています。現実として事業所数(関与先)が減り、益々、税法も複雑になるであろうことを考えると今後は税理士業界も甘くないと思っています。

ただ、税理士をやめた後は社会福祉法人等に関わらせて頂いたので福祉かボランティア活動を妻と一緒にできたらなと思っています。

最後は多少なりとも社会還元ができれば・・・・・・・・